



みさごたより

Espresso Part 9

薩摩川内市立里小学校

文責：永野
No. 1甌島と山犬 そして つん

大人にもぜひ読んでもらいたい児童文学 「孤島の野犬」 椋 鳩十 作

～ 読書旬間に寄せて ～

甌島のことを学んでいくうちに、^{やまいん}「山犬」鹿島地区では「カジ犬」という野犬との歴史に目が止まりました。

甌島には、むかしから多くの野犬（山犬）が集団で生きていて、まるでオオカミのようにイノシシや鹿を群れで襲っていた。そして、山に食料がない時は、里にも下りてきて、家畜ばかりでなく時には人も襲われた…。

鹿島の古老の話では、野犬の被害をなくすために、太平洋戦争の前ごろまでは、村人総出で鍋や鐘を鳴らしながら、野犬を断崖に追い詰め、崖から追い落として被害が少なくなるようにしていたそうです。

中には断崖の途中の岩に取り残され、上にも登れず海に落ちるわけにもいかず… 何日も何日も海を通る舟に向かって助けを求めて鳴いていた… さすがに漁師さんたちもその姿には、哀れみを感じた… 古老の話からは、甌島と野犬とのかかわりがよく伝わってきます。

今では姿をほとんど見ることがない甌島の野犬ですが、その甌島の野犬をテーマにした

^{むく} ほとじゆう ^{ことう やけん} 椋 鳩十 先生の作品が「孤島の野犬」です。昭和38年に発表されたこの作品を書くために、椋先生は二十数回も甌島を訪れたそうです（下甌島の手打には、この作品を記念し「孤島の野犬像」が立てられています）。

子供向けの文学と、軽い気持ちで図書室の本を手にしたのですが…

そこに描かれている野生の犬の生と死、そのリアリティーと臨場感^{りんじようかん}（まるでその場にいるかのような感覚）にぐいぐいと引き込まれ、一晩で一気に読んでしまいました。

犬の生態や習性をリアルに描きつつ、人とのかかわりでは、人間の身勝手さ^{ほんろう}に翻弄される生き物の哀しさとたくましが鮮やかに描かれています。

「王者の座」「消えた野犬」「丘の野犬」の3つの話からなる「孤島の野犬」時に残酷^{ざんこく}であり、時には胸があつくなり… まずは、お父さんお母さん方に読んでいただきたいと、心から思いました。

さて、話は変わりますが 西郷さんが連れていた薩摩犬 つん！ 薩摩犬の特徴である耳がつんと立っていることがその名の由来と聞いたことはありましたが、そのルーツが甌犬だということは、ここに来て初めて知りました。

今は絶滅したとされる薩摩犬 「獵犬として優秀で、時にどう猛でもある。ただ、いったん心を許した人には人なつっこく忠実である。」と伝わる特性もこの本を読めば、とても納得がいくと思います。



それにしても、犬好きの西郷さんも困ったものですか？

興味がある方は、つんとの出会いを調べてみてください♪



